

# 全国下回る20代投票率

## 田辺市 「高校生に啓発図りたい」

選挙の年代別投票率は全国的に20代が最も低い。その中で、田辺市の20代は、同世代の全国平均を大きく下回っている。選挙年齢を「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が成立した。早ければ来夏の参院選から適用される。市選挙管理委員会は「高校生に対して積極的な情報提供、啓発を図りたい」と話している。

2014年の衆院選の20代投票率は田辺市が22・64%、全国は32・58%。13年の参院選は田辺市24・79%、全国33・7%。10年の参院選でも田辺市27・66%に対し、全国36・17%だった。全国に比べ、20代の投票率が低い要因を市選管は「高校卒業後、県外に出る割合が多い。住所地の変更をしておらず、不在者投票の手続きまでしない人が多いことも影響している」とみている。

県選管は高校生を対象に出前講座を開いたり、チラシを配布したりする。市選管も連携して啓発に取り組みたいという。

和歌山大学地域連携・生涯学習センターの西川一弘講師(社会教育学)は「若い世代の投票率向上には、社会との接点を設けることが重要。選挙の争点を議論した上で模擬投票したり、投票の啓発活動を高校生に任せたりしてはどうか。若い世代が立候補しや

メモ 年代別投票率は、市町村の標準的な投票率を示している投票区を1カ所抽出して調査している。田辺市周辺町の13年参院選の20代投票率は白浜町29・03%、上富田町37・24%。

すい環境づくりも必要だ」と話している。湯浅町選管は若い世代に選挙に関心を持ってもらうようと、今春の統一地方選で20代を対象に投票の立会人を募集。1人が期日前投票の立会人を4日間務めた。今後も取り組みを継続したいという。

### 改正選挙法 投票の意義、方法学ぶ 田辺工業高3年生

田辺市あけぼのの田辺工業高校3年生は11日、18、19歳も投票できる公職選挙法の改正を受け、投票の意義や方法などについて学んだ。県と田辺市の選挙管理委員会が主催。「県政おはなし講座」の一つ「選挙の大切さを知ろう」。県選管の職員が年齢別の投票率を示し、若者の

投票率が低いことを紹介。「若者の票が少なくなると、若者の声や意見が届かず、政治に反映されにくくなる」などと投票の意義を説明した。投票方法やインターネットを使った選挙運動などについても話した。体育館には来夏の参院選を想定した投票所を設置。職員の説明を受けながら、生徒が選挙区と比例代表の投票用紙にそれぞれ記入し、実際に使っている投票箱へ「一票」を投じた。高井直君(18)は「選挙にはぜひ行く。投票の流れを知ることができたので良い経験になった」、湯川信哉君(17)は「あまり政治のことは分らないけれど、選挙には行くべきだと思っている。なんとなく投票の方法が分かった」と話した。



投票の仕方を学ぶ生徒 (11日、田辺市あけぼの)